

目次

第一部

序：人類社会の未来を問う—危機的世界を見通すために	古沢 広祐	5
I 経済成長主義とは別の道—日本の事例		
維持可能な社会（Sustainable Society）は可能か—戦後公害史の 教訓から	宮本 憲一	21
美しい地域づくり支援の教訓—滋賀県甲良町の事例	千賀 裕太郎	29
II 資本主義に対峙する新たなコミュニティへの展望		
連帯社会への道—新たな文明への挑戦	津田 直則	36
グローバル資本主義に抗するローカリズムの論理	武田 一博	43
「南」からのエコロジー的な声に耳を傾ける	アリエル・サレー (布施 元 訳)	56
〈地域コミュニティ〉を基盤とした多元的グローバル・ガバナンス に向けて	澤 佳成	69
III 新たなコミュニティのための思想		
転機に立つ人類社会—グローバル化のなかのコミュニティを問う	内山 節	77
文化の多様性に関する世界宣言と未来世代の権利—コミュニティと の関連において	服部 英二	86

第二部

巻頭言

我々はどこから来たのか？ 我々は何者なのか？ 我々はどこへ行 くのか？ —総合人間学の諸課題にふれつつ	尾関 周二	94
--	-------	----

小特集 特別シンポジウム「いま、平和と戦争を考える」

集团的自衛権と安保法とを考えるシンポジウム開催について（趣旨 説明）	堀尾 輝久	99
憲法成立の原点と安保法制「成立」という現点から考える平和	河上 暁弘	102
日本国憲法の現在：戦後日本における憲法と「自衛権」論議の変遷	柳沢 遊	125
女性の立場からみた平和：一人の女性弁護士からの憲法9条論	米倉 洋子	134

寄稿論文

『源氏物語』の人間学 覚え書き	太田 直道	144
「政治」の「再生」とポスト・マルクス主義—ムフ、ラクラウとア ーレント	佐藤 和夫	154

若手研究者奨励賞受賞論文

環境徳倫学研究における環境徳と受傷性〈Vulnerability〉	熊坂 元大	171
-----------------------------------	-------	-----

一般研究論文

マックス・シェーラーにおける「人間」概念再考—ニヒリズムと動 物化の狭間で	岩内 章太郎	181
承認論の視点から見た遺族ケアの哲学的考察—H B V 遺族調査を踏 まえて	片山 善博	194
新自由主義教育改革の新段階—教育課程・教育内容への新自由主義 の浸透	久保田 貢	205

第10回研究大会若手シンポジウム報告：「〈老〉と〈幼〉から考える人間の主体性」

現代社会における生きづらさを考える 人間の尊厳の視点から	大倉 茂	216
〈老〉と〈幼〉をめぐる多様な価値観	福井 明子	219
美術教育からみる〈老〉と〈幼〉	田中 千賀子	230
〈老〉と〈幼〉をつなぐ新たな可能性—消費文化論の視点から	藤原 敬	238

図書紹介（会員による新刊著書）	248
『総合人間学』バックナンバー	252
学会会則	256
投稿規定・執筆要綱	259
あとがき	北見秀司／下地秀樹 266